

これからはじめる防災対策・3
～自分の地域を知っておこう～

●ハザードマップを活用しよう！

「ハザードマップ」とは、災害の恐れのある地域で地震が起きたらどのくらい揺れるのか、洪水が発生したら浸水はどのくらいの深さになるのか、避難場所、避難ルートなどを示した地図のことです。

「洪水」「内水」「高潮」「津波」「土砂災害」「火山」などの災害ごとにハザードマップは作られます。ハザードマップは災害対策に役立つ情報を教えてくれるのですが、活用する際には、つぎの点に注意が必要です。

- ・ ハザードマップがない地域でも災害が発生する場合がある
- ・ 予測を超える災害が発生する場合がある
- ・ 災害の全体像が分からない場合がある

●ハザードマップがない!?

地域によっては、ハザードマップが存在しないケースがあります。ですがハザードマップがないからといって、その地域に災害が起こらないというわけではありません。

2016年の台風10号による水害があった岩手県岩泉町では、洪水ハザードマップ（浸水想定区域図、浸水指定緊急避難場所）がありません。

また、ハザードマップはあくまでも予測ですから、予測を超えるような災害が発生する可能性があります。実際に東日本大震災では“想定外”の災害が発生しました。

●災害の全体像が見えないことも

ハザードマップは、行政区画を対象に作られています。でも、災害にとってみれば人間側の都合などお構いなしです。

例えば、河川の上流で洪水が発生するケース。下流にある市町村の洪水ハザードマップを見るだけでは、どこの地点で川が決壊し、どの方向から水が流れてくるのか分からないこともあります。

●他の情報も参考に

上のような状況では、近隣の自治体のハザードマップもあわせて見ることで、災害の全体像を把握しやすくなります。また過去の災害状況など他の情報も、地域の災害リスクの参考になります。

インターネットで利用できる3D地図は進化しています。
航空写真を立体的に見ることができるので、
建物の様子や地形の起伏が一目で分かり、
いろいろな角度からも見るができます。

鳥になった気分で地域を眺めてみてはいかがでしょうか。

【国土交通省ハザードマップポータルサイト】

<http://s360.jp/c/7Cd/fK/hM/Jj/Q-/>

(一財) 防災教育推進協会 笠間 正弘